



春のオススメ本紹介

YA担当より

春は出会いと別れの季節で、なにかとそわそわしますね。新学期や新生活のはじめにまずヤングコーナーで新しい本、新しい自分を発見してみませんか？



①

「ざんねないきもの事典」
今泉 忠明／監修
高橋書店
YA書架 480ザ



「ウナギの体が黒いのはただの日焼け」「ワニが口を開く力はおじいちゃんの握力に負ける」。変化する地球の環境に合わせて進化し生き残ってきた動物たちの、知られざる生態をご覧ください。今の彼らの体の造り、生き方、能力には、きちんと理由があるのです。思わずくすりと笑ってしまう生態知識ばかりですので、どのページを開いても楽しめます。ざっと目次に目を通して「なんで?」「どうして?」と思った動物たちから読んでいってください。

②

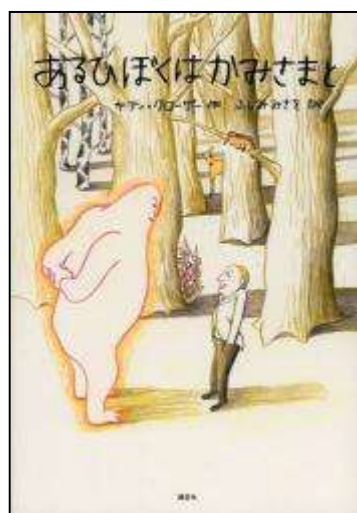
「走れ、風のように」
マイケル・モーパーゴ／著
佐藤 見果夢／訳
評論社
YA書架 933モ



世界一足が速い犬といわれる、グレイハウンド。この物語の主人公となる犬は、人間の都合で3回も飼い主を変えられてしまいます。その度に名前も変えられ、住む環境も変わってしまいますが、その運命を受け入れ、出会った人々の心を支え、その人の人生を変えていきます。数奇な運命をたどった1匹の犬と、人間との強い絆を描いた物語です。

③

「あるひぼくはかみさまと」
キティ・クローザー／作
ふしみ みさを／訳
講談社
YA書架 E7



「かみさま」といったら、どんな姿を思い浮かべますか？おごそかな、とっても偉い感じ？この物語の青年がであった神さまは「オムレツ」を知らなくて木登りもできません。もちろん神さまらしいところもありますが…。この春、新入生・新社会人と新たな場所に一步踏み出す方も多いかと思えます。未知の世界と出会うのは少し不安。そんな時はこの絵本を読んで『まずは知ってみる事』その事を思い出してみてください。

④

「すきになったら」
ヒグチ ユウコ／作
フロンズ新社
YA書架 E7



「すきになったらしりたくなる あなたのすきになったものをすきになったり あなたにとってだいじなものをりかいしたくなる」——すき、という気持ちを綴った絵本。一人の少女がすきになったワニへの想いが、シンプルな言葉と繊細な絵で描かれています。すきな人がいる人も、いないと思っている人も、一度は感じたことがあるであろう気持ちが詰まっています。絵本ですが、少し大人になった世代にこそおすすめしたい一冊です。